

## 第1章 策定に当たって

### 策定趣旨

水道は、市民生活と都市活動に欠かすことのできない重要なライフラインです。

水道局が「安全で良質な水をいつまでも安定して供給する」という使命を果たしていくため、事業運営の方向性を見定めるための長期的な事業構想を持ち、計画的に事業を行っていく必要があります。

また、水道事業は人の健康に直接影響を与える「水」をお届けするものであり、公共性が非常に強い事業であるため、運営のあり方については、何よりも利用者の皆さまのご理解をいただくことが不可欠であり、事業の長期的な方向性を打ち出すことは、利用者の札幌水道への信頼を高めていただくためにも必要であると考えています。

そのため、平成16年(2004年)から概ね四半世紀にわたる札幌市の水道事業(以下「札幌水道」といいます。)の運営に関する長期的な方向性として「札幌水道長期構想」(以下「長期構想」といいます。)を策定し、「利用者の視点に立つ」という基本理念のもと、「安全で良質な水の確保」、「安定した水の供給」、「利用者に満足される水道」、「健全経営のもと自律した水道」という4つの目標を定め、計画的に事業を進めてきました。

一方、近年は、人口減少社会の到来や東日本大震災の発生に伴う危機管理対策、エネルギー政策の見直しなど、水道を取り巻く社会経済情勢が大きく変化しています。

これを受け、厚生労働省では、平成25年(2013年)3月に「新水道ビジョン」を策定しました。この「新水道ビジョン」では、今から50年、100年後の将来を見据えた水道の理想像を掲げるとともに、その具現化のため、「安全」「強靱」「持続」の観点から、今後取り組むべき事項や方策を示しています。

また、札幌市では、平成25年(2013年)にまちづくりの計画体系で最上位に位置付けられる「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定し、目指すべき都市像を「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」、「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」と定め、まちづくりの方向性を示しました。

これらの水道の理想像や目指すべき都市像を具現化するため、札幌水道らしさを踏まえつつ、社会経済情勢の変化に的確に対応し、将来にわたって持続可能な水道システムの構築に取り組むことが重要です。

これらのことから、水道事業にとって普遍的な長期構想の基本理念や目標を継承しつつ、長期的な視点に立った取組の方向性や今後10年間に進めていく具体的な取組などを示す札幌水道ビジョンを策定しました。

## 位置付け

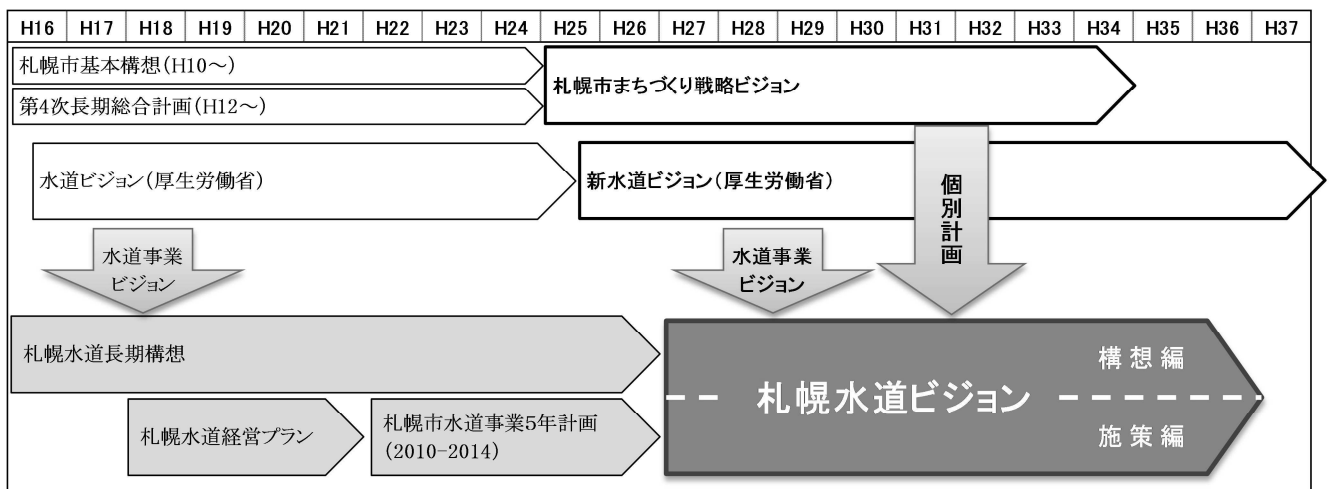
札幌水道ビジョンは、これまでの「長期構想」と「札幌市水道事業5年計画（2010-2014）」を一体化したものであり、水道事業の理念や目標を「構想編」、目標を達成するための具体的な取組を「施策編」とする、2編構成の計画です。

計画期間は、平成27年度（2015年度）から平成36年度（2024年度）までの10年間とします。

なお、このビジョンは「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の基本的な方向に沿って策定する水道についての個別計画として位置付けます。

また、厚生労働省が「新水道ビジョン」を推進するために全国の水道事業体に策定を求めている「水道事業ビジョン」（長期的視点を踏まえた戦略的な水道事業の計画）に位置付けます。

【図表1】水道局の計画と関連計画



## 特色

### 1 水需要減少期への挑戦

今後の人口減少等に伴う水需要減少期における施設の大規模更新などに向けて、これまで築いてきた水道システムを次世代に適切に引き継ぐために、今後の施設整備の方向性と財務基盤の強化について示しました。

### 2 パートナーシップの醸成

利用者の信頼性向上や業務の効率化、技術力の確保・向上、災害対応力の強化など、さまざまな取組を効果的・効率的に進めていくために、利用者や出資団体、民間企業、他の水道事業体、教育・研究機関など多様な主体とのつながり（パートナーシップ：連携）をより一層意識した計画としました。

### 3 恵まれた自然の活用

自然の恵みである再生可能エネルギー<sup>1</sup>を利用する水力発電の導入、豊平川扇状地などの自然の地形を生かした施設の配置による省エネルギー化など、世界に誇る環境首都・札幌の実現につながる取組を盛り込みました。

<sup>1</sup> 【再生可能エネルギー】石油や石炭などの化石燃料とは異なり、資源が枯渇しないで繰り返し使うことができるエネルギーのこと。水力や太陽光のほか、風力や地熱などがある。



■ 第1章 策定にあたって

位置付け

札幌市まちづくり戦略ビジョンの水道についての個別計画  
計画期間は平成27年度(2015年度)から平成36年度(2024年度)までの10年間

特色

- 1 水需要減少期への挑戦
- 2 パートナーシップの醸成
- 3 恵まれた自然の活用

構想編

■ 第2章 基本理念と目標

基本理念 「利用者の視点に立つ」

目標

- 1 安全で良質な水の確保
- 2 安定した水の供給
- 3 利用者に満足される水道
- 4 健全経営のもと自律した水道

施策の基本方向

- 1 水源の確保と水源保全の強化
- 2 水質管理の強化
- 3 効率的な施設整備と維持管理
- 4 総合的な危機管理システムの確立
- 5 利用者サービスの充実
- 6 経営の健全化・効率化
- 7 活力ある人材・組織づくり
- 8 環境に配慮した事業運営の推進

■ 第3章 札幌水道のあゆみ

■ 第4章 札幌水道の現状と課題

■ 第5章 今後の事業環境と事業展開の考え方

次世代水道  
に向けた考え方

- 1 施設整備の方向性
- 2 パートナーシップの方向性

施策編

■ 第6章 今後10年間の取組姿勢

■ 第7章 重点取組項目と事業の実施計画

- 重点取組項目 1 水源の分散配置と水質の安全性の向上
- 重点取組項目 2 施設の更新・耐震化と危機管理体制の強化
- 重点取組項目 3 利用者とのコミュニケーションの充実
- 重点取組項目 4 経営基盤の強化と連携の推進
- 重点取組項目 5 エネルギーの効率的な活用

■ 第8章 財政収支見通し

前半5年間(平成27~31年度)の財政収支見通し

■ 第9章 進行管理体制